

児童の様子

いよいよ夏休みになりました。さんこう児童クラブの子どもたちは夏休みの宿題に一生懸命取り組みながらクラブでの製作活動や学生さんの活動を楽しんでいます♪

最近の戸外活動では、蟬に興味を持ち、よく蟬を探して観察している姿が見られます。ある日、外で鬼ごっこをしていると、子どもたちが蟬の抜け殻を見つけましたがいつもの抜け殻と様子が違うようで、驚いた表情を見せる子どもたち。「どうしたの?」と声をかけると、「セミの抜け殻が動いている!」と教えてくれました。なんと羽化直前の蟬を見つけたのです!(^_^)!そこでしばらく観察してみました。



羽化する前の蟬見つけた!動いているのは初めて見たなあ♪と興味深々の子どもたち。



羽化する場所を決めるため、木をぼる蟬を一生懸命応援する子どもたち♪落ちないように手を添える姿にほっこりします(*^-^*)



そしてお迎えが来る前にもう一度見に行くと、殻から出てくることができていました♪ちなみにお家の人とこの後一緒に様子を見に行くと、立派な蟬になっていたそうです♪

◇ 8月の目標 ◇

「先生や友達に挨拶をする」

夏休みに入り、色々な活動を通して学生さんとふれあう機会が多くなってきました。子どもたちは、最初は緊張しながらもすぐに学生さんと仲良くなり、活動を楽しんでいます。しかし、恥ずかしくて返事や挨拶をしたくてもなかなか勇気がもてずにいる子どもたちが何人かいるようです。そこで、8月は大学の先生や学生さん、友達に気持ちよく挨拶ができるように関わっていきたいと思います。



学校法人永原学園
さんこう
児童クラブ通信

令和5年8月発行
— 第5号 —

【三光幼稚園】
TEL: 0952-31-0753
【さんこう児童クラブ携帯】
TEL: 090-7430-1312



暑中お見舞い申し上げます。

猛暑が日本列島を覆い、どこに出かけても暑さとの戦いですね。今年は人流が活発化し、海外まで足を延ばす人たちも増えています。周囲からの刺激が増えて気持ちも上向きになってきましたね。

さて、本児童クラブの子ども達は夏休みバージョンに移り、大学の教職員、学生さん達が考えて下さったレクリエーションをワクワクしながら受講しています。考えるゲーム、描画、珍しい楽器の演奏等に、緊張しながらも好奇心と探究心で意欲的に取り組んでいます。児童クラブの先生たちも子ども達の意外な反応に驚いたり感心させられたりしています。この夏の様々な体験が、子どもたちをまた、ひと回り成長させてくれることでしょう。

熱中症に気を付けながら、ゆったりと過ごしたいと思います。

🎵 8月のおたのしみ🎵

- 水遊び
- 学生さんの活動
- 映画鑑賞
- 読書活動
(大学内図書館)
- 戸外活動

8月の学童児童数

	7月末 在籍数	8月利用 なし人数	8月 退所人数	8月 初日人数
1年生	9	0	0	9
2年生	10	2	0	8
3年生	1	0	0	1
計	20	2	0	18

子どもを「水の事故」から守るために

西九州大学 短期大学部

幼児保育学科 教授 牛丸 和人

1 水の事故への警戒

コロナ禍も収束傾向にあり、今年の夏は子どもたちに思いきりプール遊びを体験させようと思われている保護者の皆様もいらっしゃることでしょう。そのような中、子どもたちを水の事故から守るための手立てを今一度ご確認くださいと思います。

2 子どもは静かに溺れるという認識

子どもの水の事故の特徴の一つが「保育者や保護者が傍にいたにも関わらず溺れたということです。そこには、子どもが溺れる際の行動への大人側の勝手な思い込みがあるとも言われています。実は私もその一人でした。

ドラマやアニメ等で子どもが溺れるシーンでは、子どもがバシャバシャと水しぶきをあげたり「助けて」と大きな声で叫んだりしていることが多いですね。しかし実際には子どもたちは静かに沈んでしまうことがほとんどなのだそうです。溺れている状況を理解できなかつたり息を吸うのに精一杯で声を出せなかつたりしながら静かに沈む、これを本能的溺水反応と言うそうです。「まさかこんなに浅いプールで」「ちょっとの間ならかまわないだろう」「これまで大丈夫だったし」といった思い込みや油断が重篤な事故につながったケースが少なくありません。子どもから片時も目を離してはいけないということを再認識しておきたいものです。

3 水難事故は室内でも・・・

水難事故は園内だけで発生するわけではありません。家庭用のビニールプールやお風呂でも起きています。消費者庁のHPには風呂での水難事故防止のために以下のような具体的な手立てが示されていますのでポイントを紹介します。

【風呂での事故防止】

- 大人の洗髪時は子どもを浴槽から出す。○大人が先に入り子どもを先に出す。
- 子どもだけで入浴させない。○子どもが小さいうちは浴槽の水を抜く。
- 風呂場前にベビーゲートを設置する。

【洗濯機での事故防止】

- 洗濯機にはチャイルドロックをかけて蓋を開けられないようにする。

4 子どもにも水の怖さを教える

水難事故防止のために私たち大人が気をつけることは勿論ですが、子どもたちにも水の怖さを教えたり、万が一のために着衣泳訓練を取り入れたりすることも危機管理には必要だと言われています。私たち「大人の行動」が、多くの水の事故から子どもを守れるということを実感しておきたいですね。